

作物名：園芸共通

病害虫名：トマト黄化えそウイルス（病原：*Tomato spotted wilt virus* ; TSWV）

1 被害の特徴と診断のポイント

- ・ トマトでは、はじめに上位葉が生気を失い、急に褐色えそ斑点やえそ輪紋が現れて葉は下側に巻くが変形はしない。のちに葉柄や莖にも褐斑えそ条斑を生じる。果実は、褐色えそ斑点やえそ輪紋を生じ、部分的にこぶを生じて奇形になる。
- ・ ナスでは、成葉にやや不鮮明な大型の退色斑紋を生じ、褐色のえそ斑になる。生長点付近の葉はえそ斑点やえそを生じ、奇形となる。また、小型の退色斑紋や輪紋からえそ斑を生ずるが、生長点が枯死することは少ない。台木や穂木の莖が黒変し、維管束が褐変した場合、進展すると全葉が萎凋し、株が枯死する。
- ・ キクでは、葉に退緑斑点、輪紋やえそが発生する。病徴が激しいと莖にもえそ条斑が発生する。
- ・ 病原ウイルスの宿主範囲は広く、ナス科、マメ科、キク科、ヒユ科など多くの植物に感染する。



写真1 トマト果実のえそ斑点

2 伝染源・伝染方法

- ・ アザミウマ類（ミカンキロアザミウマ、ヒララスアザミウマ、ネギアザミウマ、チャノキイロアザミウマなど）によって媒介される。
- ・ アザミウマ類は幼虫のみが本ウイルスを獲得でき、羽化した保毒成虫によって伝搬される。保毒成虫は終生伝搬能力を保持する（永続伝搬）が、経卵伝染はしない。土壌伝染、種子伝染しない。

3 発病しやすい条件

- ・ トマト、キク、アスターなどで本病が発生していると伝染源になるので、これらのほ場付近での栽培は避ける。

4 防除方法

（1）アザミウマ類の防除のポイント

- ・ 成虫の侵入を防止するため、施設の開口部に寒冷紗（銀色 300 番）を設置し、出入り口の開閉時間は短くする（青色や黄色のネットは成虫を誘引するので注意）。
- ・ 発生源となるほ場周辺の雑草等を処分・枯死させる（野積みは禁物）。
- ・ 卵と蛹の期間は薬剤に触れにくい所にいるので、異なる薬剤を 4～5 日間隔で 2～3 回散布する。また、高密度の場合はさらに追加散布を行う。
- ・ 防除効果の高い薬剤が少ないので、耕種的防除も組み合わせた総合防除を実施する。
- ・ 薬剤防除の場合は登録農薬を使用し、同一系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ビニールマルチを使用して、土中の蛹を死滅させる。
- ・ 収穫終了後は施設を完全に密閉・高温に保ち、アザミウマ類を死滅させる。

（2）TSWV 防除のポイント

- ・ 既発生地からの苗をできるだけ導入しない。
- ・ 発生源となる恐れがあるので、施設内に観賞用植物を持ち込まない。
- ・ 栄養繁殖の植物では、発病したほ場の株は親株に用いない。
- ・ 発病株を見つけたら、速やかに抜取り、焼却または土中に埋める。

5 その他

- ・ 宮城県における発生状況は、平成 9 年に県北部の冬春トマト（施設栽培）で初めて発生が確認され、翌年、同一地域の夏秋ナス（施設栽培）でも発生した。平成 11 年には県南部の夏秋ト

マト（苗、施設栽培）県北部及び東部ではスプレーギク（施設栽培）でも発生が確認され（平成11年5月現在）、本病の発生が拡大している。

6 出典

（1）参考文献

- 農業総覧原色病害虫診断防除編2-①（農文協）
- 原色野菜の病害虫診断事典（農文協）
- 農業総覧花卉病害虫診断防除編1-①（農文協）

（2）写真

- 宮城県病害虫防除所撮影



写真2 ナスの葉におけるえそ斑点



写真3 キクの苗における葉の退緑斑点

（令和5年3月改訂）